

會務報告

第 33 卷 第 4 號 昭和 12 年 4 月

役員會記事

第 1 同常議員會 (昭 12. 2. 19)

出席者：大河戸會長，辰馬，新井兩副會長，阿曾沼淺間，海老，小澤，小宅，金子，蒲 榎木，河西，菊池，後藤，關，高橋，中村，宮本森田各常議員，久保田前會長，柴原書記長，小野寺庶務主任，五十嵐編輯主任

報 告

1. 日本工學會評議員會議事を報告せり。

議 事

1. 定款第 19 條及第 23 條に基く昭和 12 年度理事 6 名の選挙は會長指名とし次の諸君選任せられたり。
理事 宮本武之輔君(重任)，金子源一郎君，關 信雄君，沼田政輝君(重任)，榎木寛之君，後藤宇太郎君(重任)

2. 規則第 23 條に基く各部々長に次の諸君選任せられたり。

總務部長 宮本武之輔君，經理部長 金子源一郎君
編輯部長 關 信雄君，調査部長 沼田政輝君
法制部長 榎木寛之君，東亞部長 後藤宇太郎君

3. 防空施設研究會本會選出研究委員選定の件は理事會一任とせり。

4. 土木學會内に防空施設研究委員會を設置することとし委員の選定は理事會一任とせり。

5. オリンピック大會土木施設調査委員會を設置することとし委員の選定は理事會一任とせり。

6. 關西支部申出の第 1 同年次學術講演會經費預算(講演印刷代)追加の件は前に決定したる預算額の範圍に於て爲すこととし其の旨回答することとせり。

7. 本會特別員の募集を即時實行することとし，而して關西支部管内特別員勧誘に就ての支部申出條件に關しては更に審議することとせり。

8. 特別員募集に關聯し本會内に土木事業調査常設委員會を設置することとし其の要綱及委員の選定は理事會一任とせり。

9. 振興委員會第 3 部會提案の土木學會企畫委員會を設置すること及委員の選定は理事會一任とせり。

10. 振興委員會第 3 部會提案の本會機構改正に關する件は理事會一任とせり。

11. 土木學會文化映畫委員會委員に草間康二君を追加依頼することとせり。

12. 本年 5 月改選の大塚堤國際委員會日本國內委員會選出委員の選定は理事會一任とせり。

13. 役員會及委員會開催日を別紙(省略)の通りとせり。

14. 5 月及 6 月催物を次の通りとし之が計畫は理事會一任とせり。

5 月 視察旅行， 6 月 講演並に映畫の會

15. 入退會の件

榎原達也君外 4 名を會員に，和泉幸源治君外 8 名を准員に，伊藤三郎君外 12 名を學生員に入會，准員坪井基君を會員に，學生員秋山格君外 2 名を准員に転格を承認せり。

會員篠原昇君外 1 名，准員依藤廣治君外 1 名，學生員三澤三郎君は死亡し，會員雄川謙三君外 2 名，准員宇都宮壽夫君外 5 名の退會を承認せり。

16. 常議員會附議事項中次の件は理事會に一任することとせり。

1. 諮問に応じ又は建議を爲す事項に關し継続反復すべき場合の處置

2. 會員の入退會及転格承認

3. 會誌其他刊行物の寄贈

4. 臨時に開催する講演會其の他の會合

5. 委員會委員の選定

第 1 同理事會 (昭 12. 2. 24)

出席者：大河戸會長，辰馬，新井兩副會長，宮本，沼田，榎木，金子，關各理事，柴原書記長，五十嵐編輯主任

報 告

1. 本會資產總額及理事變更の登記を了せり。

2. 昭和 11 年度事業報告，收支計算表，貸借對照表及會員數を主務官廳に報告せり。

3. 關西支部常議員坪井豐彦君転任に依る後任に長久保俊夫君就任せり。

議 事

1. 土木學會防空施設研究委員會委員長及委員に次の諸君を選定せり。

委員長 眞田秀吉君
委員 田中 豊君，山口 昇君，瀧田武雄君

藏重長男君 菊池 明君 櫻井英記君
高橋三郎君 高橋甚也君 森田三郎君
淺間逸雄君 河西定雄君 中村光四郎君
河口協介君 内田莊一君 今井 周君
鎌田鋭一君 町田 保君(幹事)

本委員には可成他の官廳關係代表者を網羅することに申合せたり。

2. 防空施設研究会本會代表に次の諸君を選定せり。

第2分科會 福田武雄君 森田三郎君
第3分科會 山口 昇君 中村光四郎君

3. オリンピック大會土木施設調査委員會委員長及委員に次の諸君を選定せり。

委員長 岡野 昇君

委員 古川淳三君 佐藤利恭君 金森誠之君
黒田静次君 井上隆根君 衣斐清香君
高橋甚也君 藤井眞透君 沖應政次君
磯谷道一君(幹事)

4. 財政調査委員會に本會特別員候補者選定方を依頼することとせり。

5. 土木事業調査常置委員會要綱並に委員選定の件は沼田、宮本兩部長に於て再調することとせり。

6. 振興委員會第3部提案に係る本會機構改正に関する件は保留の上考慮することとせり。

7. 企畫委員會を設置するに付き委員には舊振興委員會委員中より選定することとし次回に協議することとす。

8. 大堤堰國際委員會日本國內委員會本會代表委員は中山秀三郎君の後任に新井榮吉君を推薦し其の他は現在のみとす。

9. 會誌編輯委員に次の諸君を選定せり。

委員長 關 信雄君

委員 伊藤 信君 稻葉通彦君 大川一郎君
大岡 禮三君 岡崎三吉君 菊池 明君
廣瀬孝六郎君 安宅 勝君
野坂孝忠君(幹事) 太田尾廣治君(幹事)

10. 5月開催視察旅行の件は次回の理事會に於て協議することとす。

11. 土木學會コンクリート調査委員會委員長大河戸宗治君の後任を藤井眞透君に依頼することとせり。

12. 年次學術講演會委員長に高西關西支部長を依頼し清水潤君を庶務委員に依頼することとせり。

第2回理事會 (昭12.3.8)

出席者：大河戸會長、辰馬、新井兩副會長、金子、關、沼田、榎木、後藤各理事、柴原書記長、小野寺庶務主任、五十嵐編輯主任

報 告

1. 年次學術講演會開催に當り會長ラジオ講演の件。

2. 年次學術講演會參會者の爲鉄道省へ旅客運賃割引方願出でたる處に割引の認可ありたり。

3. 編輯委員謝禮の件

議 事

1. 行政機構改正調査委員會委員に山崎匡輔君、奥田秋夫君(幹事)を追加依頼することとせり。

2. 土木士法案調査委員會幹事に野原眞孝君を追加依頼することとせり。

3. 鋼橋示方書調査委員會委員に奥田秋夫君を追加依頼することとせり。

4. コンクリート調査委員會委員に野口誠君を追加依頼することとせり。

5. 防空施設研究委員會委員に山下清吉君、岡部二郎君、岡田信次君を追加依頼することとせり。

6. 土木事業計畫審査委員會の要綱を次の如く申合せたり。

(1) 重要なる土木事業に関する相談に応じ計畫を審査するため土木事業計畫審査委員會を常置す。

(2) 委員會に於て相談に応じ並に審査する範圍は事業計畫の大綱に関するものに止め設計の細部には涉らざるものとす。

(3) 委員會の審査に要する費用は依頼者の負擔とす。

(4) 委員會に委員長1名、委員若干名、幹事1名を置く。

7. 土木學會企畫委員會委員長並に委員に次の諸君を依頼することとせり。

委員長 米元晋一君

委員 阿曾沼 均君 青木楠男君 淺間逸雄君
磯谷道一君 稻葉通彦君 今井四郎君
小深久太郎君 小宅習吉君 岡部二郎君
奥田秋夫君 加藤伴平君 河西定雄君
小林 肇君 佐野俊男君 笹森 巽君
須之内文雄君 高橋嘉一郎君 高橋三郎君
徳善義光君 服部高景君 町田 保君
松井達夫君 松田勘次郎君 最上武雄君
山下輝夫君 山岡包郎君

8. 5月開催第26回視察旅行を草津1泊、群馬水電原町発電所方面とす。

9. 年次學術講演會講演集は前に決定したる通り發刊することとせり。

10. 前役員招待晩餐會を來る17、18日頃開催することとせり。

11. 金澤市立図書館より申出での土木工学用語集は寄贈することとせり。

12. 法制部に於ける委員會に關する件は次回に協議することとせり。

總務部記事

第5回土木學會文化映畫委員會(昭12.3.1)

出席者：金森委員長、大石、澤、片平、草間各委員
小野寺庶務主任

議事

1. 對外的宣言書原案に就き更に検討を加へその修正は委員長に一任せり。

2. 各地工事情況調査に關する具体案を草間委員に於て發案することとす。

3. 次回委員會を23日(火)開催することとす。

編輯部記事

第1回會誌編輯委員會(昭12.3.2)

出席者：大河戶會長、關委員長、伊藤、大岡、大川、岡崎、菊池、廣瀬、安宅各委員、太田尾、野坂各幹事、五十嵐、中川各編輯囑託

1. 大河戶會長より挨拶あり、次で關委員長より委員の紹介を爲し、幹事に太田尾、野坂兩委員を依頼し、各委員の分擔を次の如く決定せり。

伊藤委員(河川)、稻葉委員(鐵道建設)、大岡委員(施工)、大川委員(鐵道工務)、岡崎委員(水力、堰堤)、菊池委員(道路、軌道)、廣瀬委員(上下水、水理)、安宅委員(橋梁、構造物)、太田尾幹事(港灣)、野坂幹事(応力、コンクリート)

2. 第23卷第3號所載の工事寫眞、彙報、時報、抄録に對する謝禮を決定せり。

3. 本月分原稿の審査及新刊紹介の各委員分擔を決定せり。(擔當省略)

4. 會誌登載の原稿を次の如く決定せり。

第23卷第4號追加

討議：朝鮮慶尙南道赤布橋工事報告(會、中道峰夫)、同上(著、准、角田孝志)

時報：東信電氣新郷發電所工事計畫、世界動力會議大隈國際委員會第7、8回執行委員會議事、都市計畫關係決定事項

抄録：無鉸拱橋の特殊架設工事(星整)、靜定連續橋(三好)、Algier港Mustapha防波堤の崩壞(比田)、香港の岸壁(比田)、水頭と直線的關係を有する堰の流量係數決定の實驗(片平)、綿布を利用せる路面及路肩の處理法(谷藤)、コンクリート鋪裝並に基層に就ての最近の研究(谷藤)、堰堤の高さの表はし方(島山)、堰堤黃金時代(島山)、河底横斷に併用したflexible joint pipe(平井)、水底隧道管に於ける応力計算(宮澤)、振動塙コンクリート(山内)、眞直な梁の彈性曲線の代數的取扱(藤森)、コンクリート構造物と收縮(糸川)、佛國に於ける最近の格納庫(糸川)、渦流の寫眞による分析(片平)、支那に於ける石塊堰堤(片平)

會員の頁：土木學會誌に對する希望(會、大野諱)、土木技術者と天文趣味(會、坂元左馬太)

新刊紹介：橋梁美学、開水路の水理

第23卷第5號發載

抄録：Bonneville 條水堰堤縮切工の復舊工事に採用された突堤工法(國分)、足場昇降機を用ひて架設せる鋼拱橋(前島)、杭の破損の發見に關する一方法(糸川)、コンクリートに對する爆彈の侵徹深さ(河上)、寒中コンクリートの工法(河上)、6000萬弗の倫敦港改修計畫(比田)、3鉸水拱橋(平井)、抗圧及抗張鉄筋の和が最小となる様な斷面に於ける鉄筋張應力の算定(平井)、固定脚ラーメン橋(平井)、連續流槽に於て混ぜられる液の留止(西村)、配水網の水分布を知る簡便な方法(國分)

5. 會員の頁欄は從來必ず署名する事としをりたるも今後は内容の如何に依つては匿名を許す事とせり。但し本會には名前を通知し來る事、而して匿名のものは外部に名前を發表せざる事とす。會員の頁欄の挿入位置は抄録の次に改め、組方を2欄組に改める事とす。

調査部記事

第9回鋼橋示方書調査委員會(昭12.3.3)

出席者 田中委員長、沼田調査部長、成瀬、瀧尾、尾崎、小澤、西岡、奥田各委員、友永幹事

1. 交番応力に就き、田中委員長より別紙 blue print に就き Weyrauch 日米示方書及ドイツ示方書に依る γ' の値の比較説明あり尙ほその各根據に就きて別紙 blue print に依つて説明あり、現日米示方書

の同応力に對する規定が理論的に最も妥當なる事の説明あり、現日米示方書をそのまま認むる事とする。

2. 交番応力に就き別紙(省略)内務省と鉄道省との條文につき計算例に依り兩條文の差異の審議あり決定を見ず。

3. 衝撃係數につきは大体现示方書規約をそのまま使用する事に意見一致し尙ほ参考として比較表を附す事とす。

4. 長柱の偏心に就きては大体長さの 1/1000 を取る事及 material 公差による事を認め公差に依る偏心を大体どの程度なるやを調査する事とする。

第 8 回コンクリート調査委員會 (昭 12. 3. 5)

出席者 大河戸會長、藤井委員長、吉田、田中、大石、小宅、内山、松村、金子、野坂各委員、沼田調査部長、五十嵐囑託

新委員長更迭の挨拶あり、今回は吉田委員より鉄筋コンクリート標準示方書に對する改正意見を逐條説明さる。

(1) 吉田委員の鉄筋コンクリート標準示方書改正案の改正方針は次の如し。

1. 本學會の示方書を出來得る限り建築學會の兩示方書と連絡統一を図ること。
2. 米、獨の最近の改正案を参照し日進月歩の斯学現

狀に遅れざること。

3. コンクリートを強度の大小に依つて ordinary, high, higher の 3 等級位に別けては如何。

4. 及びのび、又の次の點等字句組方の上に尙改良すべき點あること。

(2) コンクリート圧縮強度試験報告書式の決定

第 5 回委員會より引続き議題となれる試験報告書式を別表の通り認定尙遷信省の重力乾塊用コンクリートの試験報告書式を参照し、尙各項毎に解説を附して次回提出のこととす。

(3) 委員に野口誠君を追加する事とせり。

第 9 回コンクリート調査委員會 (昭 12. 3. 9)

出席者 大河戸會長、藤井委員長、吉田、野口、大石、内山、松村、金子、小宅、野坂各委員、沼田調査部長

前回に引続き吉田委員より鉄筋コンクリート標準示方書改正案の説明あり、諸事下の如し。

(1) 標準示方書の改正には第 1 章~第 6 章を松村委員、第 7 章~第 13 章を内山委員、第 14 章~第 20 章及附録試験方法を野坂委員にて分擔、改正案につき吉田委員と打合せの上次回委員會に提案のこととす。

(2) 標準示方書につき吉田委員の改正案説明あり。

(3) 新に無梁版を示方書に規定することとし、野坂

コンクリート圧縮試験結果

昭和 年 月 日検査

工 事	現 場	現 場	現 場	現 場	現 場
	現 場	現 場	現 場	現 場	現 場
使 用 材 料	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント
	セメント	セメント	セメント	セメント	セメント
コンクリート	配合	配合	配合	配合	配合
	配合	配合	配合	配合	配合
製 造 試 験	製 造	製 造	製 造	製 造	製 造
	製 造	製 造	製 造	製 造	製 造

材 質 試 験	材 質	材 質	材 質	材 質	材 質
	材 質	材 質	材 質	材 質	材 質
コンクリート 強度試験	強度	強度	強度	強度	強度
	強度	強度	強度	強度	強度
備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考
	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考

委員より掘込鉄筋コンクリート示方書の無梁版の條項翻譯提出、次回委員會までに同示方書解説をも併せて各委員に配布のこととす。

(4) 次回委員會は改正條項整理の都合上4月下旬乃至5月上旬開催のこととす。

第7回請負工事標準契約書調査委員會(昭12.3.12)

出席者: 宮長, 森田, 上村, 菅野, 近藤各委員, 小野寺庶務主任

議 事

1. 近藤委員作成の契約書原案により第14條まで逐條審議をなせり。
2. 本契約書案を可成的速かに決定するため4月中に委員會を2回開催することに申合せたり。

法 制 部 記 事

第9回行政機構改正調査委員會(昭12.2.26)

出席者: 八田委員長, 榎木部長, 高橋(嘉), 三浦(實), 池邊, 宮島, 古川, 後藤各委員, 加藤幹事, 宮長前法制部長, 奥田秋夫君, 五十嵐編輯囑託

1. 加藤幹事より下記原案に就き説明あり、次で八田委員長より前回の経過に就き説明し、尙委員會の進め方に就き意見を求む。
2. 榎木部長より委員會の活動を外部状況に従て変化させる爲回数多くしたいとの希望あり。委員會を継続し、回数を多くする事に意見一致す。
3. 山崎匡輔君を委員に奥田秋夫君を幹事に追加する事とす。
4. 公共事業省案及公共事業委員會案を審議す。委員會案には趣旨をつけること。

社會状態の変遷國運の進展に伴つて行政事務は累年複雑化し加ふるに新規事業は其の都度便宜に従て所管を定め來つた爲之を今日遡視すれば其の間聯絡統一を缺き延いては執務の円転を阻害し簡捷を妨げるもの枚擧に遑がない。

殊に文化の進展は公共事業に於て躍進を重ねつゝある。而して公共事業の具現は殆ど大部分土木事業に依つて行はるゝを以て土木事業行政機構の矛盾、撞着は國民大多數の福祉に影響する所又甚大である。然るに現在土木事業の行政並に計畫施行機構は餘りに其の使用目的乃至機能に偏して組成され所謂各省分立對立の弊が甚だしい。具体的に擧ぐれば

1. 同一系統の事業にして各省に分屬せる例

- (イ) 港 灣
港灣修築(内務) 航路標識(逓信) 外國貿易陸上設備(大藏) 鉄道(鉄道) 漁港(農林)
- (ロ) 治 水
河川改修(内務) 用排水幹線改良(農林) 砂防(内務) 荒廢地復舊(農林)
- (ハ) 水力發電
(内務, 逓信, 農林)
- (ニ) 道 路
道路法による道路(内務)
林 道(農林)
自動車専用道路(内務) 運輸關係(鉄道)
軌 道(内務, 鉄道)
- (ホ) 都市計畫
内務大臣官房都市計畫課
各 廳

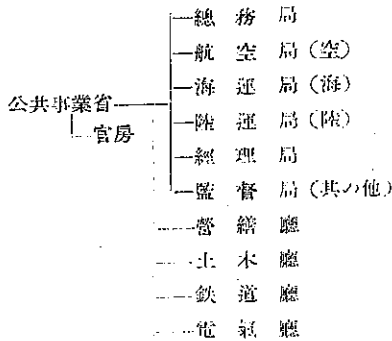
2. 同一機能に屬すべき土木事業にして各省に分割管掌せらるゝ例

- (イ) 交通關係
鉄道, 軌道(鉄道省)
道路, 港灣, 河川, 運河, 軌道, 自動車道(自動車), (内務省) 航空港, 航路標識(船舶, 逓信)(逓信省)
林道, 漁港(農林省)
陸上設備(大藏省)
- (ロ) 産業關係(交通を除く)
土地造成 工業港, 埋立, 都市計畫(内務)
土地改良 耕地整理(農林)
動力(水力)(内務, 逓信)
川 水 (内務, 農林)
建 築 (内務警察)
- (ハ) 衛生關係
上下水道, 公園, (内務省) 土木局, 衛生局, 都市計畫課)

以上の如き煩雜と無統制を是正し、事業の管理、統制、事務の簡捷を計ると、公共事業の擴充と均衡のとれたる發達を期し一方事業の經濟化を計るため本會は理想案として公共事業省(別紙1)設置と急迫せる現状に鑑み現在機構の儘にて各省に關連したる問題につき立案並に實施の命令をなし現機構による缺點を除くため暫定的機關として内閣直屬の強力なる公共事業委員會

(別紙 2) の設置を提案する。

別 紙 (1) 公共事業省



宮長前部長より挨拶あり、次回は来月 15 日前後開催することゝす。

關西支部記事

第 2 回役員會 (昭 12. 3. 5)

出席者： 高西支部長、島崎幹事長、松田、寛、奥中、宮内、澤井、荻原各商議員、清水、後藤、松島各前支部長、山本主事

議 事

1. 3 月末日座談會を開催すること當日は島崎孝彦

君、石井顯一郎君、博士受稱祝賀會を兼ねることゝす。

2. 5 月 16 日六甲越え有馬方面旅行とす。

3. 神戸市に於て水の問題に就て巡回講演會を開催することゝす。

4. 6 月 23 日より 3 日間次の通り第 8 回土木工学研究會を開催することゝす。

橋脚洗掘に就て 石原藤次郎君

道路の問題に就て 大石義郎君、藤井真透君、土壌に就て 渡邊貫君

5. 第 1 回年次學術講演會に關する件

3 月 10 日京阪神主要官廳及會社土木首腦者を招待し聽講者割當に就き協議すること。

4 月 12 日の阪神見學場所中淺野セメント工場を見學及畫辨當を用意すること。

その他記事

○昭和 12 年 2 月 18 日文部省並に東京府へ昭和 11 年度事業報告、收支計算表、貸借對照表及會員數を届出せり。

○昭和 12 年 2 月 25 日本會資産の總額及理事變更の登記を了せり。

○昭和 12 年 3 月 4 日土木學會誌第 23 卷第 3 號を發行成規の手續を了し 3 月 5 日全會員に配布せり。

入會及転格會員

會 員 (入 會)

梅原達也君 兵庫縣土木部道路課
大島義愛君 中野組大島事務所 (自己経営)

松本金吾君 大阪市土木部道路課
駒 巖君 奉天省公署土木課

今井 周君 陸軍省防産課

准 員 (入 會)

和泉幸源治君 長野縣伊那土木出張所
荻山 修君 吳海軍建築部
工藤太一君 岩手縣黑澤尻土木管區

中島毅一郎君 滿鐵牡丹江鐵路局林口工務股
長瀬武司君 編井市役所水道部
比佐直永君 岩手縣和賀川工務所

木川 勇君 滿洲關島省公署民政廳土木科
滿田次男君 第二營城築備株式會社
山中政明君 吳海軍建築部

学 生 員 (入 會)

伊藤三郎君 東京帝大
伊藤禎一君 ”
小川九十九君 熊本高工造科
濟木克巳君 京都帝大
清水宗治君 北大土木専門部

田原知雄君 熊本高工
中村善雄君 武藏高工
原口正一君 東京帝大
松田榮次郎君 日大高工
守田康雄君 武藏高工

安村 彬君 仙臺高工
柳内泰介君 日大工學部
和田正一君 武藏高工

會 員 (転 格)

坪 井 基君 滿洲國實業部

准 員 (転 格)

秋 山 裕君 合同電氣株式会社

清 水 勇君 徳山清水組

東 静 夫君 第十二師團司令部經理部

土 木 学 々 會 員 數

(昭和 12, 2, 19 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
2 839	2 763	615	3	20	6 240

會 員 高 田 清君 昭和 12 年 3 月 10 日逝去せられたり、本
會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり

會 員 篠 原 昇君、大森初太郎君の訃報に接す、本會は恭しく
哀悼の意を表す

准 員 村松義順君、柴田正三君、高橋 勇君 の訃報に接
す、本會は恭しく哀悼の意を表す

学 生 員 三 澤 三 郎君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

會 告

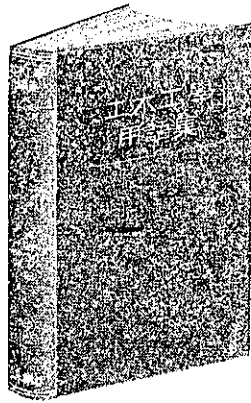
土 木 工 学 用 語 集

内 容

本文 約 500 頁
索引 約 200 頁
(英獨佛各別)

裝 幀

總タクロス上製
菊半裁判



實物見本(縮寫)

定 價

2 円 50 銭

會員に限り

特 價

2 円 25 銭

書留小包料 { 東京市内 12 銭
内地 15 銭
臺灣・樺太
朝鮮・滿洲 12 銭

部 門 別

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 応用力学 | 2. 水理 | 3. 測量 |
| 4. 河川 | 5. 砂防 | 6. 發電水力 |
| 7. 上水道 | 8. 下水道 | 9. 港灣 |
| 10. 道路 | 11. 橋梁及構造物 | 12. 軌道 |
| 13. 鉄道 | 14. 都市計畫 | 15. 材料及施工法 |
| 16. 土木機械 | | |

本書は從來の諸種の辭典は勿論他学科の用語集等と全く趣を異にし日、英、獨、佛の4箇國語を網羅し各語に就て簡明なる**定義解釋**を附し時代の要求に全く適應せしめたものであります。

土木關係者は勿論一般好學の士は必ず座右に供へられんことを希望致します。

會員に限り特價を以て頒布致します、御希望の方は本會宛御申込下さい。

會 告

昭和 11 年 土木學會 鉄筋コンクリート標準示方書及解説

示方書

四六版

解説

菊版



定 價

示方書と解説

2冊にて

1 円

送 料

會員に限り

學會負擔

昭和 6 年に制定致しました土木學會鉄筋コンクリート標準示方書は既に 5 ケ年を経過し、その内容に於て改訂を要する點が多いことを認め本會コンクリート調査委員會に於ては之が調査研究中であります。差當り術語を工學會規定の用語に、骨材試験用の篩を日本標準規格に改め、参考篇を挿入して昭和 11 年版を發刊致しました。

今回は特に携帯に便利なる様製本し、定價も示方書と解説 2 冊にて 1 円の特價にて頒布することに致しましたから御希望の方は本會宛御申込を願ひます。

土 木 学 會

會 告

第2 回國際大堰堤會議提出並に國內研究論文集頒布

第2 回國際大堰堤會議提出並に國內研究論文集が發行されました。御希望の方は土木學會又は下記宛御申込み下さい。土木學會々員に限り 60 錢（外に送料 4 錢）にて頒布致します。（論文目次、土木學會誌第 23 卷第 2 號參照）

發行所 東京市麹町區丸ノ内 3 / 4 日本動力協會内

世界動力會議大堰堤國際委員會

日本國內委員會

會費御拂込に就て御願ひ

昭和 12 年第 1 期の會費を頂く時期になりましたので會員各位の御手数を省くため集金郵便を差向けましたから御旅行その他にて御不在でも御拂込に支障なき様特に御配慮を願ひます。

集金郵便を取扱はない地方の會員に對しましては振替貯金拂込用紙を同封して御請求申上げますから最寄の郵便局へ即時御拂込を願ひます。

集金郵便も振替貯金も取扱はない地方の會員の方々は誠に御手数であります。集金郵便も振替貯金も取扱はない地方の會員の方々は誠に御手数であります。集金郵便も振替貯金も取扱はない地方の會員の方々は誠に御手数であります。集金郵便も振替貯金も取扱はない地方の會員の方々は誠に御手数であります。集金郵便も振替貯金も取扱はない地方の會員の方々は誠に御手数であります。

會 告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員		會 員	
荒川 參太郎君	稻 葉 彌 吉君	木 村 實 一 郎君	小 林 源 次君
轟 増 能君	山 本 保 之 助君		
准 員		員	
和 泉 高 殿君	池 田 乙 次 郎君	池 田 角 太 郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 興 吉君	徐 三 善君	萩 原 官 六君
栗 田 忠 治君	小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君
曾 我 進君	福 島 保君	船 橋 貞 一君	高 橋 理 三 郎君
本 橋 二 郎君	吉 見 胤 隆君	中 野 順 太 郎君	難 波 壽 一君
本 吉 田 二 億君	劉 作 禮君	濱 崎 禎 四 郎君	平 本 源 太 郎君
水 原 譽 文君	宮 田 肇君	横 田 清 治君	石 原 三 郎君
齋 藤 賢 策君	多 田 安 三 郎君		

時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣功の狀況、金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- 官廳、會社、公共團體の組織、事業に関するニュース
- 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

會 告

第 8 回全國工業家大會が開催されます奮て御參會を乞ふ

主 催 者 工 政 會

期 日： 4 月 18 日, 19 日

第 1 日： 4 月 18 日(日曜日) 午前 10 時——12 時

全國工業家大會

1. 場 所： 名古屋商工會議所

2. 次 第： 開會之辭, 挨拶, 祝詞, 決議, 閉會之辭, 午餐

午後 2 時より講演, 於名古屋市朝日會館, 講演者 2 名

3 時間の豫定

第 2 日： 4 月 19 日(月曜日)

1. 見 学： 終日博覽會及東山公園その他

懇 親 會： 午後 5 時より名古屋商工會議所に於てワット祭と合同晩餐會開催 (會費 3 円 50 錢)

4 月 20 日(火曜日) 有志の希望により「日本ライン下り」遊覽を案内す

會 費： 全國工業家大會出席者會費 1 円

申 込 所： 東京市麴町區丸ノ内 3 / 4

社 團 法 人 工 政 會

會 告

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日

但し 日曜日及祭日休。

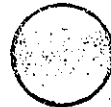
図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 賞費 金 50 錢 (郵送の場合、外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(附物六)

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種別	會費年額	第 1 期分 (1 月～6 月)	第 2 期分 (7 月～12 月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	學生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16928 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に残部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長	關 信 雄			
委 員	伊 藤 信	稻 葉 通 彦	大 岡 禮 三	大 川 一 郎
	太 田 尾 廣 治	岡 崎 三 吉	菊 池 明	野 坂 孝 忠
	廣 瀬 幸 六 郎	安 宅 勝		

既刊會誌殘部内譯

(* は殘部有るものを示す)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20	*	*	*	*	—	—	—	*	—	—	*	*	1.00
21	—	—	—	*	*	—	—	—	*	—	*	*	1.00
22	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00

第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號) 1.50
 第 21 巻第 7 號 (會誌索引付) 1.30
 災害調査報告書(1,2,3) 18.00
 応用力学聯合大會講演集 1.00
 鉄筋コンクリート標準示方書 1.00
 同上解説 1.00
 土木工学論文抄録 3.50
 土木學會誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號) 0.50
 昭和 9 年關西地方風水害調査報告 1.80
 土木工学用語集 2.50 (送料別)

上記殘部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	裏表紙 3 面對 向及廣告初頁		1 回 1 頁	40 円
			1 回 1 頁	70 円
		裏表紙 3 面 色アート	1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIII, NO. 4, APRIL 1937.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	27
Papers.	
On the Determination of the Origin in Plane Surveying. <i>By Hihumi Kagami, Assoc. Member.</i>	339
The Distribution of Stress round a Circular Tunnel with Lining. <i>By Bennosuke Tanimoto, C.E., Assoc. Member.</i>	357
Discussions.	381
Notes on Matters of Interest.	387
Current Notes.	403
Abstracts of Selected Articles.	413
Our Members Say.	443
Patent News.	445
New Publications.	447

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.